



社紋 遠い鷹の羽

お祭りしている神様

- 大己貴命 (おおなむちのみこと)
- 大新川命 (おおにいかわのみこと)
- 天照皇大御神 (あまてらすすめのおみかみ)
- 白山比咩命 (しらやまひめのみこと)
- 琴比羅神 (こんびらのかみ)
- 建御名方命 (たけみなかたのみこと)
- 菅原道真公 (すがわらのみちざねこう)

御由緒

◎新川神社がいつの頃に創建されたのか、はっきりとしたことはわかりませんが、古い書物には今からさかのぼること千百三十年程前、平安時代の初めの頃、貞観(じょうがん)九年(西暦八六七年)に越中の国(今の富山)に大新川神がいらつしやる事がかいてありますので、かなり古くからお祭りされていた事がわかります。

富山の地名で新川郡がありますが、この地名も新川神社の神様のお名前からついたものと言います。



新川神社はもともとは今の新庄ではなく、五本榎(国道四十二号線沿い、針原の北陸銀行のあたり)に鎮座していました。

新庄城の守護神として代々の城主が篤く崇敬いたし、土地や宝物などを神様にたくさん寄付されたそうです。ところが、江戸時代のはじめ頃、元和元年(一六二五年)に洪水があり、お宮は水びたし、お祭りの道具なども流されてしまったので今の新庄の場所に移されました。

それ以来、新庄町はもちろん、向新庄・荒川のほか、広田や針原の人たちも神社の祭りには必ず集まり賑わいました。そして神社が傷んで修理するときなども近くの村から人々が集まり、協力して神社をもちたてたそうです。

その後、立山の頂上への参拝登山がさかんになると、登山者は必ず新川神社にお参りして登山の安全を祈願し、登山安全の神様としても有名になりました。立山の雄山神社と新川神社の社紋(神社のご紋)は同じ鷹の羽のご紋です。

今では新庄校下をはじめ、おおぜいの人々がお正月の初詣や四月十九日の春祭り、十月の秋祭りにお参りにいらつしやいます。

新川神社の主なお祭り

- 一月 一日 歳旦祭(さいたんさい)
 - ・新しい年をお祝いする祭り
- 二月 十九日 祈年祭(きねんさい) 鎮火祭(ちんかさい)
 - ・お米と農作物の豊作をお祈りする祭り
- 四月 十九日 春祭(通称・どべまつり)
 - ・年に一度、御神輿が各町内を巡幸します。どべが神様の道案内をします。
- 十月 十九日 秋祭
 - ・実りの秋がきたことをよろこぶお祭り
- 十一月二十六日 新嘗祭(にいなめさい)
 - ・米をはじめとする農作物の収穫を神様にこそなえして感謝する祭り

むかしから新川神社はあばれ川といわれる常願寺川の洪水がおこらぬように人々が祈願した水の神様であり、お米や農作物がたくさんできるようになりを捧げた豊作の神様です。そして新庄を中心としたこの近辺に住んでいる人々の守護神であります。

また、新川神社は新庄小学校とは深い関係があります。明治時代のはじめ、新庄小学校は新川神社の神主さんの船木家をかりて始まったのです。その後、新庄城跡である現在の場所に新築されたのです。

ですから、新川神社は新庄小学校が生まれたお里といえるでしょう。

昔は新庄城の守護神、現在も新庄校下のまもり神として新川神社の神様はいつもみなさんをお守りしています。



卯杖・卯槌

祝の額

この行事は古来宮中にて正月初卯の日、邪気祓いとして行われたもので新川神社では天保四年(一八三三)まで行われていました。

絵馬に描かれている卯杖とは、桃の木と五色の組紐でつくった杖で邪を祓う力がこもっていると考えられています。この奉納額は弘化四年(一八四七)に富山藩の画家・山下守胤の描いたものです。

